

一方的兼務外し許すな

日刊
動労千葉

1988.3.28

No. 2785

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

当局は兼務外しをやめ、ただちに原職にもどせ！

強制配転に迫るのをかける
兼務外しを許すな！

東日本会社当局は、四月一日の「機構改革」に伴って、四月四日以降、駅・関連事業部等へ強制配転した仲間たちなど兼務発令者の兼務を外して職名を一本化しようと画策している。

当局は、「必要を兼務以外は全て解除する」という方針であり、運転士の賃金格差も二年間は経過措置として保障する」と言っているが、今日のJR東日本における関連事業等への「兼務」の実体は、その多くが「強制」「組合差別」に基づくものであり、国労や動労千葉の組合員・役員や活動家を職場から排除する不当労働行為の結果として生み出されたものである。われわれは、強制的に職場から排除し、さらに追いつちをかけるように兼務まで外すという方針を断じて許すことはできない。当局は兼務外しをやめろ！ 当局は強制配転者をただちに原職に復帰させろ！

原職奪還闘争を強化しよう
新たな強制配転を許すな

強制配転された仲間のほとんどが、すでに配転後一年あるいはそれ以上たっている。われわれは、駅・売店等で、不屈に動労千葉の旗を守りぬく仲間たちに応えて、今こそ、原職奪還の闘いを強化しなければならない。

当局は、現在、「六三・三ダイ改」強行によって無理矢理生みだした「過員」のさらなる強制配転・強制出向攻撃を策動している。われわれは、「六万人体制」を公言し、徹底的な労働強化を強制し、安全を無視し、そして、動労革マル・鉄道労連と結託して、労働者を右へ左へと振りまわし、排除するようやり方を断じて許すことはできない。

強制配転、強制出向による
組合潰しをはね返せ

四・一分割・民営化を前後して、当局は実に膨大な強制配転を強行し、現在もなお組合潰しの「有効な手段」として続けている。

運転現場から国労をひとり残らず一掃し、その穴を広域配転でうめ、さらに現在は、「国労過半数職場の一掃」「山手線内からの国労組合員の排除」なることが半ば公然と叫ばれ、事実この二月には、山手線の各駅から百名をこえる強制配転が強行されたのである。また高崎では、組合脱退強要に応じない者、革マル・鉄道労連に組まない者が、ただちに強制配転されるというようなことが日常茶飯事におこなわれる状況であると言われている。

この間の闘いの成果に確信をもち、
兼務外し攻撃をはね返そう！

動労千葉は、二波のストライキを軸としたこの間の闘いによって、全国でも唯一、運転職場の第一組合として、闘いの旗を守りぬいている。この力をより強化し、駅・売店で闘う仲間を奪還しよう。

4・9国鉄労働者集会

日時 4月9日（土）午後3時
会場 東交会館 山手線田町駅下車1分

強制配転した仲間を ただちに原職に戻せ